

## 校内研究授業 3年国語「ちいちゃんのかげおくり」

3年2組で研究授業を行いました。

「ちいちゃんのかげおくり」という物語文の学習をしました。

物語の学習では、登場人物、特に主人公の変化を捉えることが大切です。「どのように変化したのか」「何によって変化したのか」を読み取ります。富田林小学校では、低学年からこのような学びを積み重ねています。



### 目標（学習指導要領より）

- 【知識・技能】
  - ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。
- 【思考・判断・表現】
  - ・文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。
  - ・登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。
  - ・文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。
- 【学びに向かう力、人間性等】
  - ・言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。

この時間の学習の目標は、「『ちいちゃんのかげおくり』を読んで感じたことを、理由とともに文章にまとめることができる。一人一人の違った考えに触れ、自分の考えと比べることができる。」です。

物語の学習も終盤に入ったこの時間に、感想文を書きました。

今年度は、書く力の向上をめざし、研究を進めています。

「書く」ことに苦手意識を持つ子どもたちにとっては、何を書いたらよいのか、何から書き始めたらいいか、スタートで鉛筆が止まってしまいます。みんながスタートで、「できるかも!」「書いてみよう!」と思ってくれるように書き方のモデルを示しました。

わたしは、ちいちゃんのかげおくりは、～～物語だと思いました。  
 その理由は、・・・・・・・・だからです。

「～～」の部分に入る言葉を探すために使ったのが、『ことばの宝箱』です。全児童に配布しています。



「ことばの宝箱」には、発達段階に応じた「考えや気持ちを表す言葉」が数多く提示されています。言葉との出会いの場にもなります。似た意味の言葉も載っているので、使い分けなどを考えるヒントにもなります。考えを深めるための手掛かりにもなります。量的な語彙力と質的な語彙力を高めていくことをめざして使っていきます。

「ことばの宝箱」の中から、自分の思いにピッタリの言葉を見つけた子は、一気に鉛筆を走らせました。書き方のモデルを使っています。

書いた後は、グループで交流です。相手を見て、相手を意識した話し方ができています。「なるほど!」「同じだけど、理由が違う!」「それと迷ってん!」など、自然と友達からの反応が返っています。



ちいちゃんのかげおくりは、  
 悲しい  
 こわい  
 楽しくて悲しい  
 うれしい  
 気が楽になった

物語

真逆の表現が意見として出てきました。「〇〇さんは、どうして～～物語と考えたのかな?」と先生が問いかけると、「たぶんだけど…」と、友達がなぜその言葉を選んだのか、これまでの学びをふりかえりながら「理由」の部分をつまみ込んで考えてくれました。

友達と意見を交流することで、一人一人の感じ方などには違いがあることに気づき、自分とは違う、たくさんの考えに触れることができました。